

教室掲示
お願いします

SSH 通信

第9号
平成30年2月13日発行
編集：Ⅱ年5組SS委員

英語合宿・アカデミックライティング講座

英語合宿・アカデミックライティング講座 (English Camp) とは、科学の英語に関する講義を受け、英語でのコミュニケーションのとり方を学んだり、プレゼンテーション能力の向上を図ったりする、SSクラス毎年恒例行事です。1月26日、27日の二日間、Ⅱ年5組が参加しました。

日程

- ◎ 1日目 (1/26、金曜日、広島大学附属高等学校)
 - ・アカデミックライティング講座
 - ・ポスター作製
 - ・ポスター発表リハーサル
- ◎ 2日目 (1/27、土曜日、広島大学東広島キャンパス)
 - ・恒松先生による異文化コミュニケーション講座
 - ・留学生によるプレゼンテーション
“University Physics in Finland”
 - ・課題研究のポスタープレゼンテーション

一日目

1. アカデミックライティング講座 ～Writing Scientific English～ 「自然な科学英語を書く」

Jeffrey L.Hart 先生 (放射線影響研究所) に、英語で論文を書くときに大切なことを教えていただきました。

最も大切なことは2つあります。ひとつは、細かいところに注意を向けることです。英語の文法や、記号の表し方、句読法、外来語としてカタカナで認識されていて英語だと間違えられやすい日本語などに気をつけることが大切です。「すみっこに悪魔は潜んでいる (The Devil is in the Details)」この言葉のように、細かいところまで目を配り、完璧な論文を書きたいです。もうひとつは、余分な言葉を取り除くことです。文法上は間違っていないとしても、同じ意味を表すもので、できるだけ短い文を書くことを心がけることです。査読者のつもりで書くとういことがわかりました。

題名 (title) には、3種類あり、上記のことに気をつけて、どのように研究内容を伝えるかのカギを握っているものです。

概要 (abstract) の書き方についてです。概要と

は、研究論文の要約で、要点と全体の両方が含まれていることが重要だと学びました。

学んだことに気をつけて、研究のまとめである、論文を書きたいです。また、これらのことは、英語で論文を書くときのみに限らず、日本語で文書を書くときにも応用できると思います。より良い文書が書けるように、練習していきたいです。

2. ポスター発表リハーサル

私たちの課題研究の英語でのポスター発表のリハーサルを行いました。科学英語の授業で学んでいることを生かして、英語のポスターを作りました。ポスターは、観客を集めること、研究内容を伝えることなどの役割があります。それぞれ工夫して、発表のリハーサルに臨みました。発表は、質問の時間込みで10分間でした。10分という時間はとても短く、研究内容を全て話すことはできません。自分たちの研究のうち、観客の人たちに持ち帰ってほしい情報に焦点を絞って、話すことが重要だということがわかりました。また、質問を作り出すこと (Create questions) が難しく、研究について議論を深めることがあまりできませんでした。また、質問をするということは、発表者に研究について興味を持ったという意味表示のことなので、この能力を鍛えることが必要です。

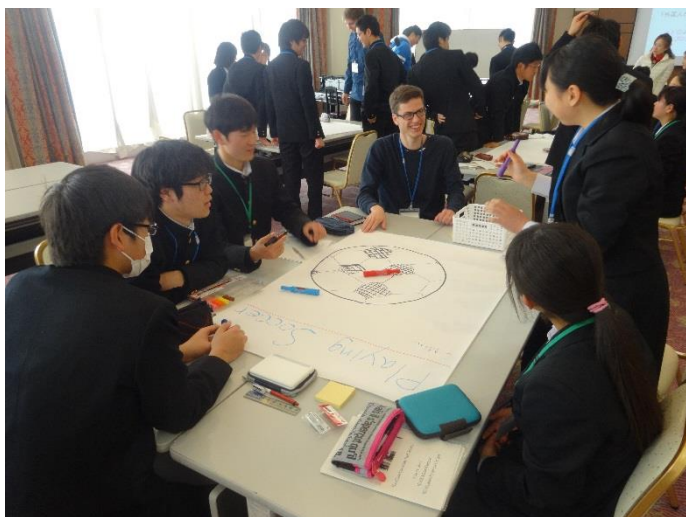
どのグループも研究が進んでおり、発表を聞くのが楽しかったです。リハーサルでの反省点を次の日のポスター発表に生かせるように頑張りました。



二日目

1. 異文化コミュニケーション講座

広島大学国際センターの恒松直美先生の講義を受けました。もちろん、講義は終始英語で行われ、先生の流暢な英語を聞き、海外の学校で授業を受けているかのように感じました。初めは先生が話される英語について行くのに必死で固くなっていましたが、慣れてくると先生のお話をとても楽しく聞くことができるようになり、質問にも反応できるようになりました。グループ活動では留学生と日本の高校生が互いに理解を深めるためには、何が必要なのかということ話し合い、グループごとに発表をしました。グループによっては、HUSA（広島大学短期交換留学）のフィンランド・香港・アメリカからの留学生と意見交換をすることができました。どのグループも独自のアイデアをだし、充実した発表ができました。



2. 留学生によるプレゼンテーション

HUSA のフィンランドからの留学生のフィンランドの大学や大学生の生活についてのプレゼンテーションを聞きました。日本とは多くの点で異なっていて、フィンランドの大学は授業開始時間の15分後に授業が始まるとか、授業料がかからないとか驚く話がたくさんありました。なかでもフィンランドの大学はサークルがなく大学生はアルバイトもないためギルドという学生の集会有るという話にとっても興

味がわきました。



3. 課題研究のプレゼンテーション

二日間の英語合宿で学んだことの集大成として自分たちの課題研究についてのポスター発表をしました。ほとんどのグループが英語での発表は初めてで、苦戦しましたが、科学英語表現の授業で学んだことを生かして発表中のジェスチャーや、姿勢、声の抑揚など工夫を凝らしました。また、発表を聞くときは質疑応答でアカデミックな質問をするために一生懸命発表を聞きました。英語科の先生方にもご参加頂き、質疑応答は非常に盛り上がりしました。



■ 感想 ■

- ・ 英語という言葉の奥深さについて知ることができた。
- ・ 論文は権威を持つものなので、しっかり推敲したい。
- ・ プレゼンテーションは sympathy であるので、聞き手とコミュニケーションをとらなければならないと感じた。
- ・ 大学の仕組みはどの国も大差はないと考えていたので、フィンランドの大学について知り、国によってここまで違うのかと驚いた。
- ・ 英語での発表は想像以上に大変で、日本語でならもっとうまく言えるのにと悔しい思いをした。

■ 編集後記 ■

SSH 通信の作成を通して、英語を話すことがいかに大変だったかを振り返ることができました。相手が言っていることは分かるけれど、自分が言いたいことを英語で伝えることはとても難しかったです。英語の勉強がんばらなきゃ…。